

フロンティア分科会の中間報告に向けた論点整理

平成24年4月9日(月)

フロンティア分科会座長
大西 隆

1. フロンティア分科会の議論経過

- 2月1日 第1回分科会 議論の進め方
- 3月8日 第2回分科会 各部会の進捗報告
- 3月25日 総理と分科会メンバーとの意見交換会
- 4月2日 第3回分科会 各部会の論点整理及び中間報告のとりまとめ方針

繁栄、幸福、叡智、平和の4つの部会をそれぞれ4回ずつ開催し、部会委員のプレゼン等を実施

2. これまでの議論における論点整理

これまでの延長線上の2050年の姿 (避けるべき姿)

< 繁栄部会 >

- ・早晩マイナス成長に転落
- ・基幹産業の空洞化、人材や富が海外流出し、低賃金の仕事しか残らない
- ・現状維持の生活も、高齢者を支えることも困難になる

< 幸福部会 >

- ・食糧難や水・空気といった「当たり前のもの」の危機
- ・貧困・格差の拡大
- ・社会不安が高まり、他者を蹴落とすマインドの蔓延
- ・能力ある若者の海外流出
- ・財政悪化による社会保障の縮小

2050年のあるべき姿

- ・未来世代が、①それまでの負担・しがらみに縛られない、②柔軟に能力開発できる社会
 - －世代内所得移転による社会保障
 - －どの世代も十分な再教育を受けられる機会(やり直し、学び直しができる雇用・教育システム)
 - －20-40歳、40-60歳、60-75歳と3つの期間で働く
 - －世界中のヒト、モノ、カネが集積する地域が複数存在
 - －世界のルール作りに貢献する国

- ・基本的ウェル・ビーイング(衣食住、医療・介護・福祉)の保障、貧困削減・機会平等・格差縮小
- ・関係性の保障(「居場所」と「絆」)
 - 地域の共有生活スペース、バーチャルな交信技術の発達
- ・ライフスタイルのイノベーション
 - フレキシブルな就労、「全国民、非正規化」等
- ・社会の持続可能性の向上(安全・安心、地球規模の環境問題の改善、食糧・エネルギーの確保等)

これまでの延長線上の2050年の姿
(避けるべき姿)

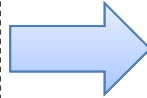
2050年のあるべき姿

<平和部会>

2050年の世界像 (これまでと異なる複数のシナリオ → 多様な可能性に備える必要)

- 米中関係: 米国が再生するシナリオ、中国が追い抜くシナリオ
- 中国以外の新興国の台頭
- 紛争回避要因(価値観の共有、相互依存の深化)と紛争促進要因(民族主義、資源争奪、環境悪化)
- 国家主権の後退と多様な主体による国際秩序への移行

- ・日本は国力の衰退が加速し、国際政治において受け身の存在
- ・領域支配といった最小限の主権すら守れない事態の懸念



- ・平和創造への積極的な貢献
→ ルール・制度、国際公共財等の供給者に
- ・能動的なアクターとして国際的に「敬意」を持たれる国家

2050年のあるべき姿を支える叡智の在り方

<叡智部会>

- 交流(海外研修・知識発信)・編集(情報の整理と結合)・度量(多様な才能を生かす)
- 知識・文化を担う「人材」
:流動性の促進、変化と失敗への対応力、デジタル教育環境、身体知の重要性、「つなぐ」才能の育成
- 知識・文化と「社会」との関係
:多様性の保障、集合知の形成枠組、学術情報の社会伝達、キャリアパスの多様化、アジア地域との多国間協力
- 知識・文化と「市場」との関係
:多様な知の結節点、独自文化の海外発信、国際標準、知財の活用、地方の多様性、地域のデザイン
⇒ 日本独自のモデル作り(課題先進国)、ルール形成への参与

2025年までに切り拓く領域

< 繁栄部会 >

- ・将来世代につけを回さない政策(財政再建、社会保障給付の削減)
- ・就労インセンティブを高める社会保障制度や税制の確立
- ・75歳までの世代も新しい働き場所を得て、元気に支える側に回る
- ・再教育を提供する仕組みや産業の充実
- ・柔軟な雇用ルールの構築・正規雇用の概念を変える
- ・グローバル人材の積極的な受け入れ
- ・世界のルール作りに貢献できる人材育成

< 幸福部会 >

- ・基礎ニーズの充足、貧困削減(特に子どもの貧困)、機会格差の解消など
- ・疑似家族的なつながりの増加(屋台村、若者から高齢者まで集うセンター)
- ・地域の人々の参画による地域の人々のための地域活性化
- ・正規・非正規といった身分の2分の解消、ワークライフバランス、両立支援の技術発展
- ・本気の少子化対策と同時に、外国人に開かれた日本

< 平和部会 >

- ・適切な防衛力の維持・整備と安全保障ネットワークの強化及び拡大
- ・経済構造の大胆な改革と日本の特質を生かせる新たな技術分野(バイオ・医療、海洋、宇宙等)の開拓
- ・人間の安全保障の社会モデルの提示、平和構築、国際災害協力での主導的地位
- ・近隣諸国との市民レベルでの相互理解の促進 → 地域共同体構築を目標
- ・先進国と新興国を含めた国際ルール強化を実現するための交渉力を持つ人材
- ・戦略的意思決定を行い、国際水準に比肩する情報力・交渉力を備えた国家体制の構築

< 叡智部会 >

- ・人材流動化・キャリアパスの多様化のための終身雇用制等の見直しや海外との人材交流
- ・デジタル教育等の社会実験のための「特区」等の可能性、教育における身体知の重要性
- ・社会的包摂と教育保障。情報公開による政策的議論の可視化による国民参加。科学コミュニケーション。
- ・知財活用のための規制解除や国際標準化。ネットワーク環境の整備
- ・地域の発意と創意を引出す仕組みと地域間情報交流。自然環境＋農地＋都市を組合わせた地域デザイン。
- ・日本独自の文化(アニメ・漫画・ゲーム、ファッション、デザイン)の育成と世界への発信

3. フロンティア分科会・4部会における議論の4つの視点からの再整理

	繁栄のフロンティア	幸福のフロンティア	叡智のフロンティア	平和のフロンティア
国際化が進む (グローバルズム)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的に活躍する揚力の開発 ・海外からの有能人材の受入 ・アジア経済圏の確立 ・海外と直接つながる地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人にとって魅力的な日本 ・移民 ・教育の国際化 ・食の保障 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンで自由度の高い社会 ・グローバル人材の育成 ・日本の知や文化を世界とつなぐ ・世界の優秀な人材を引き付ける環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国等新興・途上国の台頭に伴うパワーバランスの変化 ・国力(経済力)の相対的低下、経済大国維持できず・知的ガラパゴス化(孤立化)への対応
若い世代の活躍 (少子高齢化)	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な能力開発体制 ・若年層の技能習得促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困撲滅 ・教育制度の改革 ・さまざまな教育体系 ・教育格差、体験格差の解消 ・選挙制度の改革 ・参画の機会拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人材に場を譲る仕組み ・大学院までを含めた教育保証 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界に伍する人材育成 ・教育制度の改革
流動性 (場所・時間にとらわれない多様化社会)	<ul style="list-style-type: none"> ・やり直しがきく体制 ・高齢者でも活躍できる人材開発体制 ・女性の技能習得促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑似家族(血縁でない) ・長時間労働解消(WLB) ・非正規の待遇改善を伴う全国民の非正規労働化 ・共有地の拡大 ・地域の分権化 	<ul style="list-style-type: none"> ・知の流動化の一層の促進(多様な人材のぶつかり合い、知のシャッフルを実現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存対策の抜本的な変革による国力の向上
日本の強み・個性を生かす (日本の個性)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・インフラ等システム開発輸出 ・成長分野に資金がまわるような金融の仕組み ・地方の魅力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共性の高い日本社会 ・高齢社会を支えるハード・ソフト技術の開発促進と他国への輸出 ・新しい家族のかたち ・生活スタイルのイノベーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い基礎学力の維持 ・継承されてきた日本オリジナルな文化 ・礼節・規範・美意識の継承・発展 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係国との協力強化、国際ルール作りに貢献 ・経済や安心感などの広義の平和への貢献 ・新たな技術分野の追求

1975年	日本人平均年齢 32.5歳	年間出生 190万人 死亡 70万人
2010年	45歳	出生 107万人 死亡 120万人
2050年	53.4歳	出生 56万人 死亡 160万人